

2008 年第 12 回 ILAC 総会等報告

2008 年 10 月

認定センター (IAJapan)

2008 年 10 月 11 日～21 日にスウェーデン、ストックホルムにおいて ILAC (国際試験所認定協力機構) / IAF (国際認定フォーラム) の合同年次総会及び関連会議が開催されました。IAJapan (独立行政法人製品評価技術基盤機構) からは 3 名が ILAC 関連の会議に参加しました。この他、日本からは JAB (財団法人日本適合性評価認定協会) が参加しました。

会議は次の日程で開催され、総会及び付属の委員会等において活発な議論が行われました。

2008 年 10 月 11 日 (土) 12 日 (日)	ILAC 認定委員会 (AIC)
14 日 (火)	ILAC 技能試験諮問グループ (PTCG) ILAC 市場 情報委員会 (MCC)
15 日 (水) 16 日 (木)	ILAC 相互承認委員会 (ARC)
18 日 (土)	ILAC / IAF 合同フォーラム
19 日 (日)	ILAC 総会 / ILAC 相互承認評議会
20 日 (月)	ILAC / IAF 合同総会
21 日 (火)	ILAC 総会

主な結果概要は以下のとおりです。

ILAC 総会関係

◆ ILAC メンバーの増加

昨年 10 月のシドニー総会以降、準メンバーとして、KAC (カザフスタン) 及び INDECOPI (ペルー) が新規に承認され、加盟したことが報告されました (総会決議 GA 12.02 関係)。また、地域認定協力機関である CAC-MAS-Q は現在活動を停止しているため、メンバーシップが取り消されました (総会決議 GA 12.14 関係)。

◆ ILAC 相互承認参加と継続

ILAC 相互承認署名機関 (フルメンバー) として、L-A-B (米国、試験及び校正分野) PJLA (米国、試験分野) OGA (グアテマラ、試験分野) TUNAC (チュニジア、試験及び校正分野) が承認されたことが報告されました (総会決議 GA 12.03 関係)。また、PAO (フィリピン) の相互承認が一時停止となったことが報告されました。現在、相互承認参加機関は 47 カ国 / 地域の 61 機関となってい

ます。

◆ 役員の改選

役員の改選が行われた結果、次の役員が 2 年間の任期で選出されました（総会決議 GA 12.27 関係）。

議長 Daniel Pierre (COFRAC、フランス)再任

副議長 Peter Unger (A2LA、米国)再任

相互承認委員会委員長 Merih Malmqvist-Nilsson (SWEDAC、スウェーデン)新任

認定委員会委員長 Regina Robertson (NATA、オーストラリア)新任

市場情報委員会委員長 Graham Talbot (UKAS、イギリス)再任

合同開発支援委員会委員長 Maribel Lopez (ema、メキシコ)再任

相互承認管理委員会委員長 Llew Richards (ANZ、ニュージーランド)再任

アンアフィリエー代表 Dorsaf Zanger (TUNAC、チュニジア)新任

試験所委員会委員長 Maire Walsh (イギリス)再任

技能試験諮問グループ委員長 Rick Wilson (CALA、カナダ)新任

IAF 4ILAC 合同総会関係

◆ IAF 4ILAC の今後の協力の在り方について

IAF、ILAC 両議長からの提案により、両機関の統合も含めた両機関の今後の協力の在り方についてメンバー間で意見交換がなされました。両機関の統合については賛否両論があり、今後は作業グループを作り、統合のメリット、デメリットなどの分析を行っていくことになりました。

ILAC 相互承認委員会関係

◆ 相互承認手続の改正等について

相互承認要件や手続の一部改正（総会決議 GA 12.18-22 関係）、相互承認報告書の公表、域外認定方針、相互承認スコープの特定の仕方などについて活発な議論がなされました。

ILAC 認定委員会関係

◆ BMC とCMC の用語の統一について

校正機関の能力を表現する用語として、認定機関では BMC (Best Measurement Capability) が広く用いられてきましたが、一方、国家計量標準機関では CMC (Calibration and Measurement Capability) が用いられています。BIPM (国際度量衡局)とILAC で用語の定義について検討がなされ、BMC も CMC も同義であることが確認されました。今回の会合では市場の混乱を避けるため、今後 CMC に用語を統一していくことが確認されました。また、これに関連して、ISO GUMの統一の運用のため、測定の不確かさの見積もりに関するガイドラインが作成されています（総会決議 GA 12.23 関係）。

◆ 遠隔校正の認定ガイドラインについて

日本提案である遠隔校正の認定ガイドラインの必要性については、概ね合意が得られ、ガイドライン作成に向けた作業を進めることとなりました。

◆ 測定のトレーサビリティ方針について

測定のトレーサビリティ方針については ILAC 文書 (ILAC P10) が存在しますが、物理系のトレーサビリティを中心とした記述となっており、化学、生物、医療分野の測定のトレーサビリティに関して補足的なガイドラインが必要との認識が共有されました。今後、これらのガイドラインの作成作業を進めていくこととなりました。

◆ 標準物質生産者 (RMP) 認定のガイドラインについて

RMP 認定分野の相互承認を進めるため、RMP 認定のガイドラインの作成作業が行われています。今回の会合で初めてガイドライン案が提示されました。

技能試験諮問委員会関係

◆ 技能試験プロバイダー (PTP) 認定分野の相互承認について

PTP 認定分野の相互承認を進めるため、ISO/IEC 17011 などの分析が行われ、その結果、PTP の認定にも適用できることが確認されました。しかしながら、PTP の認定を行っている国がある一方で認定機関が自ら PT を供給しなければならない状況の国もあり、この点に関して一定の方針を定めていくことが確認されました (総会決議 GA 12.24 関係)。

◆ 技能試験の参加頻度に関する要求事項について

試験所及び校正機関を認定するに当たって、認定機関は試験所及び校正機関に一定の頻度で技能試験への参加を求めています。今回、この頻度に関する見直しの検討が行われましたが、結論には至りませんでした。今後も引き続き検討が行われることとなりました。(ILAC P9 文書の改正)。

次回開催

次回の総会及び関連会議は、IAF と合同で 2009 年 10 月中旬にカナダ、バンクーバーで開催されることとなりました。

なお、2010 年は中国、2011 年はタイで開催予定。

以上